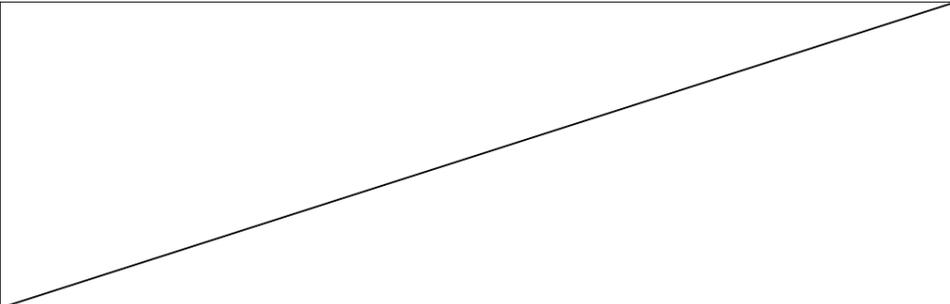


1. 指定管理者名	公益財団法人 多治見市文化振興事業団
2. 指定期間	平成 28年 4月 1日 ~ 令和 3年 3月 31日
3. 業務の範囲	1. 管理運営業務 (1) 受付業務 (2) センターの維持に関すること (3) その他必要な管理運営業務 2. センターの事業運営 (1) 情報の収集・提供及び広報事業 (2) 相談業務 (3) 行政と団体との中間支援組織としてのコーディネート業務 (4) 調査提言機能 (5) 行政との連携 (6) 市民や市民団体向けの交流事業、啓発事業の企画・運営(年3回以上) (7) 市民ニーズに応じたセンター運営

4. 採点表		評価項目	細目	配点	採点基準	実績(パーセントを求める場合は、小数点第1位を四捨五入)	分析、評価、指示等	得点
1	運営・利用状況 (40点)	(1)利用状況(10点)	①施設の利用率(利用時間/日数×営業時間)	5	平均値比(注) 105%以上:5点、105%未満~95%:4点、95%未満~85%:3点、85%未満:2~0点 平均値比(●●%)=利用率(●●%)÷上記(1)、(2)又は(3)	平均値比とは、当該評価対象年度の利用率を次に掲げる値で割って求めた率をいう。 (1)指定管理期間1年目 前指定管理期間における利用率の平均値 (2)2年目以降 指定期間における当該評価年の前の年の利用率の平均値(例:4年目の場合は、1~3年目の平均利用率) (3)新規施設の場合又は施設内容の大幅変更等により(1)、(2)によることが不相当であると判断される場合 他の類似施設における利用率実績に所要の調整をして算出した値	【評価対象外】	
				5	平均値比(注) 105%以上:5点、105%未満~95%:4点、95%未満~85%:3点、85%未満:2~0点 平均値比(117%)=利用人数(延べ8,763人)÷上記(2)適用(7,477人:(7,631+7,323)/2)	平均値比とは、当該評価対象年度の利用人数を次に掲げる値で割って求めた率をいう。 (1)指定管理期間1年目 前指定管理期間における利用人数の平均値 (2)2年目以降 指定期間における当該評価年の前の年の利用人数の平均値(例:4年目の場合は、1~3年目の平均利用人数) (3)新規施設の場合又は施設内容の大幅変更等により(1)、(2)によることが不相当であると判断される場合 他の類似施設における利用人数実績に所要の調整をして算出した値		
		(2)市の事業の企画・運営・実施状況(仕様書内)(15点)	15	仕様書以上:15~12点、仕様書に忠実:11~9点、仕様書の一部不実施(軽微):8~7点、仕様書の一部不実施(中程度):6~3点、それ以下:2~0点	1. 情報の収集・提供及び広報事業 支援センター便りを4回発行し登録団体に送付。ホームページ、フェイスブックは週2回内容をチェックし、常に新しい情報になるよう更新し発信。展示スペースでの団体情報発信8回 2. 相談業務 NPO専門相談を、毎月計画開催7回(県NPOセンター職員)11人、窓口相談133件 3. コーディネート業務 NPOカフェを新規企画開催12回 62人、NPO講座5回 70人 4. 調査提言機能 団体の現状把握及びサポート 市民活動団体の現場活動訪問延29回・登録団体の情報更新(年1回更新、登録随時) 5. 行政との連携 企画防災課と連携し防災活動について考える機会を提供 6. 市民活動を育てる交流事業、啓発事業 市民活動団体交流会1/27 39人(28団体)参加、登録団体の支援、環境フェア 2/17 680人参加 7. 市民ニーズに応じたセンター運営 おもちゃ病院 12回 165人、ダンボールコンポスト販売の取次、多治見観光ボランティアガイドの活動紹介 8. おかげさまでスペース、ぼるとマーケットの開設	仕様書に忠実 11点	1. 市民活動団体の広報についての確にホームページや情報提供、フェイスブックの活用し、地元新聞社等での告知や掲載で市民の施設認知度を上げている。 2. 相談業務の拡充を図っている。 3. 講座に加えNPOカフェの新規開設で、コーディネート事業が充実している。 4. 現場を見ることで情報収集、団体とのつながりを生み出している。 5. 企画防災課と連携し防災活動について考える機会を市民に提供している。 6. 市民活動団体交流会ははじめとする事業を実施し、市民団体活動の交流を深める機会を作った。 7. 一般市民に向けて、環境や子どもの情操教育、シニア世代の活動をサポートしている。 8. おかげさまでスペースでこんなこともボランティアという情報の提供、ぼるとマーケットでだれでもできる小さなことも市民活動につながるということを的確にPRし、センターに気軽に立ち寄る機会の創出を行い、来場者増につなげている。	11点
(3)自主事業の企画・運営・実施(15点)	15	内容・事業数等が期待以上:15~12点、内容・事業数等が例年通り:11~9点、内容・事業数等が例年よりやや劣る:8~7点、内容・事業数等が例年より劣る:6~3点、内容・事業数等が例年よりかなり劣る 2~0点	1. 防災関連講座・展示 講座「楽しくおいしくプチ防災」かにNPOセンター事務局長山口由美子氏 5/30 21人:災害時のトイレの問題について考える 10/26 30人:自宅非難が一番楽ちゃん 展示「防災をトイレから考える~うんちのうんちくから始めよう~」 2/26~3/26 2. 市民向け講座 ①講演会「多治見空襲のお話」吉田紀光氏 7/15 24人 8/5 29人 ②市民活動の基本となる活動 きちんとまなぶNPO会計基準 6/14 9人 NPO会計の年末調整と決算 12/6 6人 ③ボランティアははじめの一歩講座 9/20 6人 ④プチボランティア わいわい広場 11/4~ 38人 3. ヤマカまなびパーク連携事業 「ながせ商店街写真展」 4/1~22 「ハロウィンフォトスポット」 10/2~31 4. 他団体との連携・共催事業 「YONDEA BOOK ピクニック」アンケートサポート 4/22 30人 多治見まちづくり㈱と連携 「シニアメイクで笑顔いっぱい」桔梗大学の学生を中心としたシニアメイク講座 5/15 12人	期待以上 13点	1. 地域防災を高めるという視点から、災害時のトイレ問題について女性目線で考える機会や震災の展示により災害対策における市民活動の有用性を見据え、防災活動の活性化を図り、市民の防災への関心を高めた。 2. NPO法人の事業を進めるにあたり、会計処理に苦手意識を抱く団体も多いと思われる中、講座を開催しフォローすることで、各NPO法人のスキルアップ、信頼性の向上に寄与した。 ボランティア人材を発掘するにあたり、はじめの一歩講座、プチボランティアの取組は非常に効果的であり、はじめの一歩講座では3人の人がこれをきっかけにボランティア職員として働いていて、効果が上がっている。 3. 4. 連携事業において、センターの認知度を高めるとともに、別団体と連携することで新たな市民への取り込み促進につながった。	13点		

2	施設管理状況 (25点)	(1)施設管理業務の 実施状況(10点)	①清掃	10	①チェック細目の丸数字の各項目を3 段階評価する (適正(普通):2点、一部不備あり:1 点、不備あり:0点) ②5項目の合計点とする。 ※駐車場は、期待以上:8点、適正(普 通):6点、一部不備あり:4点、不備あり 2点	適正実施	適正(普通) 2点	適正に実施している。	10点
			②保守・点検			適正実施	適正(普通) 2点	法定点検、日常点検ともに適正に管理している。	
			③保安・警備			適正実施	適正(普通) 2点	適正に実施している。	
			④小規模修繕			該当なし	適正(普通) 2点	該当なし	
			⑤危険箇所の把握(施設の瑕疵)			適正実施(毎日目視点検)	適正(普通) 2点	日常業務の中で、随時危険箇所の点検を行っている。	
	(2)その他管理業務 の実施状況(15点)	①文書管理	15	①チェック細目の丸数字の各項目を4 段階評価する (期待以上:3点、適正(普通):2点、一 部不備あり:1点、不備あり:0点) ②5項目の合計点とする。	ファイリングシステムを導入し、適切に管理されている。	適正(普通) 2点	鍵付キャビネットで文書を保管し、個人情報に最新の注意を払っている。絶えず整 頓し、わかりやすく、見やすいファイリングを実施している。	10点	
		②環境への配慮			市の環境マネジメントシステムに準じて、再生紙・裏紙利用、エコ商品の購入、節電に配慮 している。	適正(普通) 2点	適正に実施している。		
		③バリアフリー			通路の安全確保、避難経路の確認等、適正に実施している。	適正(普通) 2点	交流スペースを整理し、車いす等の移動のための動線を確保している。		
		④備品管理			適正に管理している	適正(普通) 2点	適正に実施している。		
		⑤個人情報保護			キャビネットは施錠管理をしている。 登録団体の情報公開の可否は、個別に確認のうえ管理をしている。 マイナンバーの収集は、文化振興事業団の規定に基づいて取り扱っている。	適正(普通) 2点	適正に管理し、管理者の「個人情報保護に関する基本方針」に基づいて管理して いる。		
⑥事故等への対応	0	事故等への対応は減点対象とする(事 故なし及び事故等への対応に不備なし:0 点、事故等対応に不備あり:△1点)	事故なし	事故なし・対応に不 備なし 0点	事故なし	0点			
3	当該施設の経営状況 (5点)	①事業収支	5	当該年度の収入÷支出が、105%以 上:5点、105%未満～100%:4点、 100%未満:3点	収入(284,349,206)÷支出(284,762,820)=100% 学習館・図書館を含む	105%未満～100% 4点		4点	
4	より良い施設 運営のための 取組 (30点)	(1)市民・利用者の 声の反映 (15点)	①ニーズの把握・事業への反映	10	期待以上:10～8点、適正(普通):7～5 点、不備あり:4～1点	利用者からの意見を反映した事業展開(要望2件について対応済み)	適正(普通) 7点	要望に対して常に迅速に対応し、回答できるように配慮している。職員が窓口で常 駐しているため、迅速にサポートできている。	7点
		②苦情対応	5	期待以上:5点、適正(普通):4点、不 備あり:3～1点 ※苦情なしは4点とする	1件(センターの場所が分かりにくいとの声が届き、1階受付や階段にPRポスター等を掲示 し案内するようにした。)	苦情なし・適正(普通) 4点	苦情に対して迅速に対応し、利用者への配慮がされている。 また苦情対応だけでなく、センターの認知度アップにもつながる対応をして複数の 効果を上げている。	4点	
	(2)より良い施設運営・事業実施のための提案・姿 勢、上記1～3の評価に反映されないその他の成果 ポイント(15点)	15	提案、姿勢、その他の成果ポイント(ア ピール)が 期待以上:15～12点、適正(普通):11 ～9点、普通未満～物足りない:8～0点	1. 「立ち寄りやすい」環境づくり 情報発信ツールの活用(マスコットキャラクターおかげちゃん設定) 複合施設連携による認知度向上活動 おかげさまスペース・ぼるとマーケット開催 2. 職員の資質向上 窓口対応力の向上 3. 新規ボランティア希望者が取り組みやすい環境整備 しっかりとサポートできるよう各種団体と連携し環境を整備 4. スキルアップをサポートする事業活動の実施 事業計画の資料作成、提案内容発表のための話し方やプレゼン資料作成等サポート	適正(普通) 11点	1. より多くの来館者へのアピールのため、複合施設の利点を生かし、認知度向上 活動に力を入れている。センターの場所を周知する掲示場所を図書館側の階段も 検討するなどより多くの人が来館するよう工夫してほしい。 2. 専門的な知識を習得し、スタッフのスキルアップも図り、対応力を高めている。 3. ヤマカまなびパークに来館している若い世代で、いろいろな力を持っており、楽 しんで行ってくれる人に声をかけ、ボランティアにつながるよう発掘の試みを進めて いる。 4. 市民活動団体と積極的に意見交換をし、団体が抱える課題の共有ができてい るほか、その解決に向けた支援ができるよう他団体や、オープンキャンパス講師の 紹介等も実施している。効果的なチラシ作成、会計処理の悩み等にこたえる講座 設定等が適正に実施されている。	11点		
5	その他 (減点方式)	(1)報告書類の提出状況	0	提出書類の遅れ・不備に応じて減点対 象とする(遅れ・不備内容の程度により △1～△3点) 一部遅れ・不備あり(軽微):△1、一部 遅れ・不備あり(中程度):△2、一部遅 れ・不備あり(それ以下):△3	遅れ・不備なし	遅れ・不備なし 減点 なし		0点	
		(2)市からの指示等への対応(報告書類の提出以 外)等	0	指示への対応等に応じて減点対象とす る(対応等の内容により△1～△3点) 指示等なし・対応等が期待どおり:減点 なし、対応等が期待以下(軽微):△1、 対応等が期待以下(中程度):△2、対応 等が期待以下(それ以下):△3	指示なし	指示等なし・対応等 が期待どおり 減点 なし		0点	

合計	100	【4段階評価】 極めて良好 100～85点 良好 84～65点 努力が必要 64～45点 取消し等を検討 44点以下		合計80点
				良好 全体的な評価 ・市民活動交流支援センターの周知を図るヤマカまなびパーク等との連携講座の開催、NPO専門講座等幅広く事業を行っている。 ・市民活動団体の把握を行うため、現場訪問を行い、多くの情報を積極的に収集している。 ・おかげさまスペースやぼるとマーケットなど、「活動をする」という明確な意思をもたない人にも気軽に参加できる環境を提供している。(潜在人財の創出) ・はじめの一歩事業(平成30年度新事業)やプチボランティア事業で、人財発掘に寄与している。 ・今後も多くの市民活動団体の把握をし、ニーズに合った支援体制を続けてほしい。